

北海道ぎょれん広報

なみまるくん

1

2024

No.423



「うみ・なまかまコミュニケーション」



特集

海・ひと・夢 スペシャル 新春 会長インタビュー
ぎょれん常勤役員の新春メッセージ

海ひと夢スペシャル

新春会長インタビュー

一人ひとりの漁業者が明るい 未来を見い出せる年に



阿部国雄会長

明けましておめでとうございませす。
新春にあたり、阿部会長に
昨年を振り返り、新年に向けた
お話を伺いました。

[うみ・なかま コミュニケーション]

なみまるくん

北海道ぎょれん広報誌
Hokkaido Gyoren Magazine
January 2024 No.423

1
2024

- 01 海・ひと・夢 スペシャル
新春 会長インタビュー
- 04 新春企画 ギョレン常勤役員
新春メッセージ
- 06 特集
ギョレン職員が選ぶ ギョレン5大ニュース
- 08 なみまるインフォメーション
- 10 浜の家族物語
釧路市漁協/田名部 雄基さん ご家族
- 11 頭すっきり!! ブレイクタイム
- 12 大漁祈願!
浜のほっとニュース
- 13 みなさんのお便りでつくるページ
なみまる おたより箱



日本有数の水揚げ量を誇る釧路港。釧路の中心市街からほど近い東港区の副港地区では、地元漁船の沿岸漁業だけでなく、外来船による水揚げも加わり、一年を通じて様々な魚種が水揚げされています

表紙の写真
釧路市漁協/田名部 雄基さんご家族です



2023年を振り返り

昨年の本道漁業全般を振り返ると、高水温などの海洋環境の変化と、福島第一原発アルプス処理水の海洋放出に伴う中国の日本産水産物の輸入停止措置に大きく左右された年だったと感じています。

主要な魚種では、秋鮭は、前年大きく漁獲が回復した状況から一転して落ち込み、単価も伸び悩みました。当初の予測では全道各地で好漁だった昨年よりも期待できるという話でしたが、来遊時期にはだいたいどの浜でも平年より3、4度は上回る驚くほどの高水温となっていました。それは鮭にとっては適温ではなく、何年前前にもありましたが、昨年は河川直帰型の遡上が多かった印象です。そして、高水温で死んでしまった鮭も多いと研究機関から聞いています。さらに、ふ化放流事業のための種卵の確保にも大きな影響を与えました。例えば、私の地元の渡島管内では、自前で確保できたのが採卵計画の40%強、他地区からの移植を受けても60%しか確保できず、定置業者の集まりのなかでは「これでは廃業するしかない」という話もありました。こうした状況が北上して広がっていないことを願っています。

昆布についても高水温の影響を心配しましたが、成長はそこまで悪くなく、多少の回復傾向となりましたが、ヒドロゾアやコケムシといった附着が早く、全体の水揚げ量は予定よりもやや少なくなりました。昨年は新型コロナウイルスが5類に移行し、観光産

者目線で考えた際にもう少し使い勝手の良いものにして欲しいと要望しました。国が先頭を切って、取り組んでくれていることは大変ありがたいことです。ただ、現在の500億円基金では、用途に制限が多く、使える範囲はかなり限られてしまっています。処理水放出は30年以上にわたるため、現在明確になっている問題だけでなく、突発的な問題にも直面していくとされます。漁業を子々孫々まで残していくためには、そうした問題にも臨機応変に対応できる仕組みとしていただけたらいいと思います。そして、東京電力に対しては、こちらから請求していったものに対して、もう少し

業や外食産業がコロナ禍前の状態に戻りつつあるなか、昆布の価格は上向き、新たな需要も生まれてきていると感じています。しかし、浜に目を向けると、高齢化や人手不足により着業者が減少してきています。私の地元・福島吉岡や厚岸で行っている生昆布状態のままでの出荷や、冷凍してからの製品化など、メーカーと共同で行っている取組例もありますし、今後は外国人技能実習制度の見直しも予定されています。そうしたことを踏まえながら、ぎよれんでは、しっかりと昆布漁業者の生活が成り立っていく方法を考えて、提案していかなければならないと考えています。

そしてほたては、オホーツクで順調に水揚げが進み、生産量自体は昨年から大きく減少していないものの、アルプス処理水関連の影響等もあり、単価が下落しました。また、噴火湾では貝毒の発生時期のずれや、高毒化など新たな問題も出てきました。

ほたてに関しては振り返ると辛い話ばかりですが、そうした中でも、消費者の皆さまが様々な形で消費応援をしていただいたのには、大変助かりました。日本というのは本場に情に厚い国だと改めて感じた次第です。この消費応援が一過性のものであれば、3日に1回とか、週に1回でもほたてが家庭の食卓に並び、肉や他の魚と同じように日常的に食べていただけるようになれば、本場にありたい話です。そのためにも、ぎよれんは消費者の皆さまがいつでもほたてを買うことができ、いつでも食べられるように力を注がなければなりません。販売先を海外に向けなくても、国内で消費できる形を作ることが一番良いことだと

スピーディーに対応していただきたい。加えて、30年以上放出が続いていくと、物価の上昇も予想されます。物価高騰に見合った単価の見直しも要望しておりますので、そういったこともしっかりと反映させてもらいたいと考えています。

漁業者が明るい未来を見い出せるような材料を

現在進行している温暖化は、今は漁業に対して悪い方向に向いているとは思いますが、ですが、このまま手をこまねいていても何も変わりません。2024年度の方向として、「温暖化であつてもできること」を検討しなければならぬと思っております。長期化する気候変動に対して、何かできることはないか、どういった対処ができるか、これが全体の括りの中で一番大きな課題です。

また、ぎよれんとしては、漁業者が明るい未来を見い出せるような材料を示していかなければならない年だと思っております。漁業者の皆さまが「これだったら未来は明るいな」、後継者が「これなら俺もやってもいいよ」と言えるようなことを、これからの会議の中で示していければと思っております。全国には様々な成功事例もありますので、ヒントとなるようなことを発表する機会を作り、色々な場で発表してもらって共有していければと思っております。そして、漁業者が将来を考えて新たなことに取り組んだり、いま取り組んでいることを拡充したりしていくために必要な経費に対して、

思っています。

アルプス処理水の海洋放出の影響と国や東電の対応について

中国の日本産水産物の輸入停止措置の影響は非常に大きく、特にほたては早急な対応が必要です。昨年は様々な支援があり、ある程度の消流が進みましたが、今後どのように消化を進めていくのか。ぎよれんとしては、加工能力を確保して、国内流通を促進するのが最大の目標ですが、全ては難しいと考えています。一部はベトナムなど諸外国へ委ねることも検討しながら、国内では、例えば現在、水揚げが落ち込んでいる魚種を手掛けている加工業者などへ、ぎよれんが原料の供給と販売の手助けをし、加工業者がリスクを背負わないような形で、協力を求めていければと思っております。

また、なまこについても中国への依存度が高いため、これから先を見据えた取組が必要で、今のところ価格的影響はそれほど出ていないように見えますが、今後は中国で買ってくれないので取引を止める、ということも出てくると思います。ぎよれんとしても生産者の方々を支えるための対応を進めているところですが、具体的な取組を開始するまでには少し時間が掛かるため、政府には引き続き輸出が再開できるよう、努力を続けてもらいたいと思っております。

一方で、国が打ち出している支援策について、岸田首相にお会いした際に、漁業

全体を底上げしながら地域間格差の是正へ

制度資金や補助事業を提案しながら、後押ししていくことが重要だと考えています。

全道でも地域間格差が出てきている中で、私たちは漁業者一人ひとりの生産向上に取り組み、全体を底上げしながら、その格差を少しでも埋めていけるよう、一生懸命取り組んで参りますので、漁業者の皆さま方には、前を向いて頑張ってください。「獲るものがないからどうしようもない」と言われることも多いですが、各地で養殖などの新たな取組が進み、これから続々と成功事例が出てくると思えます。そうした情報を共有しながら、取組を進めていき、生産されたものに関しては、ぎよれんが一生懸命販売していく。大きなことは言えませんが、ぎよれんを信用して任せてもらいたい。

最後にぎよれんの職員へ。いつも同じ話になりますが、「浜に寄り添っていく」ということが一番大事なことだと思います。浜の話にいち早く耳を傾け、課題点が大きくなる前に解決をしようとして下さい。そのためにも浜へ足繫く通い、いまどうい問題があるのか、いま何をしてもらいたいのか、どんな聞いて下さい。そして、そうした話を上において、常勤役員や理事会で検討し、解決に向けてできることを行っていければと思っております。



ぎょれん常勤役員の 新春メッセージ

質問項目

- ◎昨年を振り返って
- ◎新年にあたっての抱負、メッセージ



常務
山口 重幸

あけましておめでとうございます。
アルプス処理水の放水が本道のほたて流通に甚大な影響を与えることを危惧していましたが、日中間の政治的対立により中国は日本産水産物を全面禁輸するという愚行に及んでいます。本年も、引き続き全道で40万トンを超える水揚げが計画される中で、対中輸出が見込めない状況で大変厳しい対応が求められています。米国は本年も大減産が見込まれていますが、為替動向や日本経済の先行きは不透明であり、コロナが収束して明るい未来を期待していましたが、世の中そんなに甘くないようです。本年も、本道ほたての安定的な消流も目指し、的確な情報収集と国内外の消流動向を見極め、臨機応変に対応していく所存です。



常務
中村 尚広

あけましておめでとうございます。
昨年の昆布の生産は前年より1割程度上振れ見込みとなっております。価格は外食関連の需要回復もあり、コロナ前の水準に戻りつつあります。厳しい環境は変わりませんが、浜の皆様と知恵を結集し生産の安定と価格の底上げ・維持に努め、消費喚起の諸対策を行って参ります。また、原油情勢は様々な要因から高騰が続いており、燃油や漁業資材にも影響し、漁業コストの負担も大きくなって参ります。的確な情報収集に努め、系統購買を通じ少しでも安価で良質な製品供給に努めます。



常務
瀧波 憲二

新年おめでとうございます。
今年こそ穏やかな年になるよう期待したいところですが、課題があまりにも多く、そうなりそうありません。アルプス処理水による影響、多発する自然災害は基より、グローバル的には、止まらない温暖化、感染症、そして戦争と、2001年国連ではSDGsが掲げられましたが、企業のアピール材料にはなったものの、実際は解決に向け進んでないのが現状です。競争社会においては実現化は難しいのでしょうか。我々協同組合が推進してきた支柱には「総合扶助」の精神があります。この精神の、世界に向けた発信が、今求められているのではと感じているところです。今年が、穏やかにならずとも、皆さまにとって良い年となるよう祈念いたします。



常任監事
村上 和美

あけましておめでとうございます。
昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行、ALPS処理水の海上放出、インボイス制度の導入、一定台数以上の自動車を保有する事業所におけるアルコールチェックの義務化、止めは裏金疑惑と話題の絶えない一年だったと感じています。令和6年は「甲辰（きのえたつ）」の干支にあたり、「成功につながるための努力が種子の内側でどんどん育ち、姿を整えていくような年」とされています、豊漁と海難事故のないことを祈念いたします。



副会長
菊池 元宏

新年明けまして、おめでとうございます。
さて、本道漁業・水産業は、過去も現在も安全で安心、そして高品質である道産水産物を、提供し続けてきました。未来も、この姿勢を変えることはありません。しかし、昨夏、アルプス処理水放出に伴い、中国が日本産水産物の禁輸を措置し、不安・焦燥・悄然と我々の行く手に暗雲が立ち込めました。本年は、この暗雲を払いのけ、新たな一歩を踏み出していかねばならない。加えて、高水温の影響、引き続き労働力不足等、関係機関とともに、前に行くにはどうすべきか、どうあるべきか、何が出来るか、何をしなければならないか。模索と実行が求められています。令和6年、リスタートの年。本年も、何卒宜しく願いいたします。



専務
安田 昌樹

コロナ禍以降の4年ないし3年間で社会は大きく変わりました。当然私たちを取り巻く環境や背景も大きく変化しています。この数年間のメディアの報道は「コロナ」「環境問題」「戦争」でありました。特に昨年は記録的な猛暑が続いたこともあり、環境問題が大きく取り上げられました。人類・地球規模で警鐘を鳴らされている環境問題への取組は「待ったなし」の状態です。そして「環境問題」は「食」の問題でもあります。これらのテーマを追求していくことが本会の役割でもあり使命でもあるということを改めて認識させられた昨年であったと思います。各地で毎年、暑さの記録を更新しておりますが、気候変動の問題というのは「世代間不公平」の問題だといわれています。結局、今後数十年後に気候が大きく変わっても「その頃には自分は生きていない」ということです。多くの研究者が西暦2100年の危機を訴えています。単なる気温や海水温度だけでなく洪水や海水の溶解、海面水位の上昇、これらが人間社会にどれほどの影響を与えるか？といっても「その頃、我々は生きていない」のです。漁業関係者の多くが孫子の代まで漁業が持続できるよう願っています。2100年は遠い未来ではなく、我々の子供や孫が生きていく世界です。そういった意味で、我々のためだけではなく、次の世代のために漁業関係者が一体となった環境対策を推進していきたいと考えております。



常務
伊藤 貴彦

新年あけましておめでとうございます
昨年も色々な出来事がありましたが、個人的には「とにかく暑さ」を感じた年でした。札幌だけでなく普段涼しい道東までも。そして気温もさることながら海水温も記録的に上がりました。近年叫ばれている温暖化を、改めて実感しました。三陸で南方系のタチウオがまとまって獲れるようになり、道内でもフグが二千トン近くも水揚げされるようになってきました。一方で、従来獲れた魚種の不振が続くなど魚相は刻々と変化しています。海藻類である昆布も同様に高水温という“振るい”にかけられ始めているのです。驚いている間にも海洋環境は着実に変化しています。海水温は人為的に操作できません。それを踏まえ、現状の生態系を損ねることなく、環境耐性を備えた系統を開発し、そしてシフトしていくことができないか…大いに危機感を持ちながら、今年もその具現化に近づくよう態勢を整えていきたいと考えています。

4位 インボイス制度開始。

10月1日よりインボイス制度が開始されました。消費税の納税額が増える懸念もあり事務処理を徹底しスタート。



5位 新型コロナウイルスが5類に移行し、大規模の大会・研修会が4年ぶりに再開となる。

ひさしぶりの会議開催に現場は混乱！



惜しくもベスト5から外れた、6位以下はこちら

6位 全道昆布生産量は久々に前年を上回る12,000トン(前年比109%)の見込み、低水準続く。

7位 燃油高騰!!補助金なければ、ガソリン単価L@200超え!!

8位 ほたてスープ販売好調・100,000パック突破!AIR DOの機内スープとして提供開始後も、ぎょれん販売・千歳空港店舗を中心に好評販売中ですが、遂に累計販売数量が100,000パックを突破しました。

9位 ラピダスが千歳で半導体製造工場建設へ。取水は安平川水系から。排水先は議論中。水質面では有機フッ素化合物(PFAS)にも懸念。

10位 請求書のWEB配信。本会でも長年取り組んできているペーパーレス化において、請求書を紙での郵送からWEB配信する事でDX化へ一歩前進。

ぎょれん職員が選ぶぎょれん5大ニュース

ぎょれんでは毎年年末に、「今年のぎょれん5大ニュース」を職員の投票で決めています。新型コロナウイルス感染症の5類移行、長期化するロシアのウクライナ侵攻、緊迫化する中東紛争ですが、侍ジャパンが世界一になり、感動と興奮に包まれました。2023年はどのような年だったのか、ぎょれん職員の視点からご紹介します。

1位 福島第一原発アルプス処理水の海洋放出が8月24日から開始。

本道水産物への風評被害が懸念される中、中国が日本産水産物に対する輸入禁止措置を発動したことから、ほたて・なまこ漁業の水揚げ・流通・加工に大きな影響が発生。これを受け、阿部会長が岸田総理に中国の不当な禁輸措置の撤廃を強く要請しました(10月17日)。引き続き、処理水放出による本道水産物への更なる影響の回避・軽減に向けて取り組んでまいります。



2位 秋鮭の水揚げが5万トン台に留まる。数量が53,214トン、昨対68%。

地区によっては前年の1割に満たない厳しい水揚げとなりました。



3位 エスコンフィールド開業!ファイターズの本拠地「エスコンフィールド北海道」外野フェンスに本会広告看板を新たに掲出。

開幕戦は全国ネットのテレビ中継で本会CM放映も実施し、X(旧Twitter)での反響も確認されました。



今年は良いニュースがたくさんあることを期待しています。

北海道の翼「AIR DO」と北海道のほたてがタッグ さらなる国内消費拡大へ 「北海道産ほたてプロモーション！」展開中

道民の翼として親しまれている航空会社、AIRDO（エア・ドゥ）では、2月までの期間、年末年始に帰省される方々や、冬の北海道を訪れる観光客に向けた道産ほたての各種広告を展開中です。令和2年からぎょれん、北海道ほたて漁業振興協会（事務局：ぎょれん）と㈱AIRDOがタッグを組んで実施している取組で、「北海道産ほたてプロモーション！」と題して、道産ほたての認知度向上と消費喚起を総合的にPRしています。

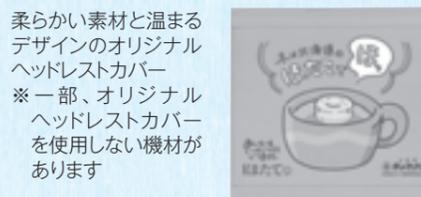
今年はエア・ドゥ機内の全座席に「冬は北海道のほたてでほっ」をテーマにしたオリジナルヘッドレストカバーを取り付け、搭乗者へ視覚的な訴求をするほか（※）、これまでも好評だったオリジナルデザインの「ほたて紙コップ」を使用した各種ドリンクサービス、「ほたてスープ」の機内ドリンクサービス並びに機内販売も実施しています。

また、エア・ドゥの公式オンラインショップ「AIRDO Online Marché」では、産地応援企画として、刺身用ほたて貝柱などを中心に道産ほたてを存分に味わえる「ホタテづくしセット」2種を販売。エア・ドゥに搭乗されていない方や、飛行機を降りた方にも道産ほたてを愉しんでいただけます。

03



機内ドリンクサービスで使われる「ほたて紙コップ」



柔らかい素材と温まるデザインのオリジナルヘッドレストカバー
※一部、オリジナルヘッドレストカバーを使用しない機材があります



オンラインショップで販売中の「ホタテづくしBセット」

ぎょれんと北海道コンサドーレ札幌でクリスマスイベント 視覚支援学校の子どもたちに 特別な体験と給食をプレゼント

12月14日(木)、ぎょれんと北海道コンサドーレ札幌は、北海道札幌視覚支援学校の幼児部と小学部の生徒たちを対象に、ぎょれん提供食材を使った特別給食と北海道コンサドーレ札幌・サンタ隊による交流会を通じたクリスマスイベントを実施しました。

当日は、北海道コンサドーレ札幌の「福祉施設訪問サンタ隊」として、クラブマスケットのドーレくんをはじめ、バドミントンチームから吉田仁監督、オフィシャルダンスドリルチーム コンサドールズから4名のメンバーがサンタの衣装で訪問。吉田監督によるバドミントンのラリーや迫力あるスマッシュの実演、ドーレくんと生徒たちとのPK対決などを通じて交流を深めようと、続いてぎょれんをはじめ、協賛のパートナー企業が提供したお菓子やドリンクなどがクリスマスプレゼントとして子どもたちに手渡されました。

その後は、みんなが朝から楽しみにしていた特別給食の時間。「ホタテと昆布のパエリア」、「鮭のピリっとジャン」など、道産の水産物をたっぷり使った「ぎょれんスペシャルランチ」が提供されると、中には2回もおかわりして食べてくれる生徒も居たりと、大変喜んでくれました。

04



交流会の最後はみんなで記念撮影。最初から最後まで楽しい1日になったようでした



給食の前の時間を利用し、この後提供される秋鮭、ほたて、昆布の特徴を紹介しました

令和5年度北海道産業貢献賞表彰式 水産業関係功労者として13名の方が表彰されました

01

12月19日(火)、ホテル札幌ガーデンパレスで道水産林務部関係の令和5年度北海道産業貢献賞表彰式が開催され、水産業関係からは水産団体等功労者として13名の方が表彰されました。

この度の表彰では、組合等の役員として事業運営の向上に貢献し、その功績が極めて顕著な職員に贈られる「優良水産業協同組合等功労者」に6名、長年にわたり水産事業に尽力または永年職務に精進し、他の漁業者の模範となる個人に贈られる「水産業等功労者」に5名、長年にわたり海区漁業調整委員会、内水面漁場管理委員会等の委員として在職し、その功績が顕著な方に贈られる「海区漁業調整委員等功労者」に2名が選ばれ、当日出席された表彰者には土屋副知事より表彰状と記念品が授与されました。今年度の表彰者は次の通りです（敬称略）。

「優良水産業協同組合等功労者」：福士國治（支笏湖漁協前組合長）、池守力（古宇郡漁協組合長）、山崎勝弘（古宇郡漁協参事）、上見孝男（えさん漁協組合長）、佐々木治一（落部漁協組合長）、三上浩（砂原漁協組合長）。「水産業等功労者」：岩田和晴（函館市漁協根崎養殖部会長）、水口忠行（渡島管内漁業士会前会長）、瀬川正義（ひやま漁協事業推進委員会会長）、佐々木忠弘（利尻富士町さけますふ化場元職員）、元角文雄（網走漁協副組合長）。「海区漁業調整委員等功労者」：傳正宏（胆振海区漁業調整委員会委員）、柴田一（渡島海区漁業調整委員会委員）



表彰式に出席された受賞者の皆さん

首都圏で道産秋鮭・いくらをPR 年末需要期に向けて東京メトロ南北線で 広告車両を運行

02

ぎょれん及び北海道秋鮭普及協議会（事務局：ぎょれん）では、12月10日(日)から24日(日)までの2週間、東京の品川区の目黒駅から北区の赤羽岩淵駅までを結ぶ、東京メトロ南北線の1編成を占有して道産秋鮭といくらのPRを実施しました。

1編成全ての中張りポスター、まど上ポスター、ステッカーでそれぞれ「ギュッ」をテーマに、シズル感のある秋鮭・いくらのイラストや免疫力を高める成分紹介、寒い時期におすすめの鍋料理などで視認性を高め、年末年始に向けたインパクトのある訴求を図りました。

また、産経新聞社が発行する無料情報誌「メトロポリターナ」の誌面でも、おいしさと栄養がギュッと詰まった北海道の天然秋鮭・いくらの記事広告を掲出するとともに、料理勉強家ヤスナリオ氏による人気連載企画「めしうまナイト」では、秋鮭といくらを使ったレシピを紹介。大消費地の東京で多くの方に道産秋鮭といくらの魅力をアピールしました。



2種類の中張りポスターはインパクトとシズル感のある秋鮭・いくらのイラストでアイキャッチ

シークワードクイズ
1月のテーマ
「星座」

モ	ト	キ	ジ	カ	ハ	リ
ク	ス	ツ	リ	ニ	ム	ユ
テ	ヒ	ラ	ゲ	ン	ウ	ウ
オ	イ	シ	カ	オ	メ	コ
ト	チ	ント	ハ	ガ	ツ	
ケ	コ	バ	ヨ	エ	ズ	ル
イ	ウ	ン	ビ	ヘ	ミ	ウ

1月は「星座」がテーマです。古来、星座にまつわる様々な伝説・神話が伝承されています。また、西洋占星術の基礎にもなりました。図の中で、たて、よこ、ななめの一直線に下のリストのキーワードが読めるようになっています。どこにあてはまるか探してください。すべて探し終わったら、どれにも使用しなかった文字をうまく並べかえてください。

リスト

- イテ(射手)
- ツル(鶴)
- ウオ(魚)
- トカゲ(蜥蜴)
- ウミヘビ(海蛇)
- トケイ(時計)
- オヒツジ(牡羊)
- トモ(鱸)
- カジキ(旗魚)
- ハエ(蠅)
- カニ(蟹)
- ハト(鳩)
- カラス(烏)
- ミズガメ(水瓶)
- カンムリ(冠)
- ラシンバン(羅針盤)
- キリン(麒麟)
- リュウコツ(竜骨)
- コト(琴)

〈ヒント〉有名なバレエ作品が思い出されます。

解き方

リストの言葉をマス目の中からタテ、ヨコ、ナナメの一直線に探していきます。文字は逆方向から読んでも、他の言葉と重複して読んでもOK。すべて見つけた後、使われなかった文字をうまく並べかえたと答え(魚の名前)になります。

例題

ア	コ	ン	ブ
キ	ア	サ	リ
ア	バ	ン	サ
ジ	コ	マ	イ

リスト

- アキアジ
- コマイ
- プリ
- サンマ
- コンプ
- アサリ

ア	コ	ン	ブ
キ	ア	サ	リ
ア	バ	ン	サ
ジ	コ	マ	イ

〈解答〉サバ

どれにも使用しなかった文字をうまく並べてください。

解答 となりませう。

くわしい応募方法は、13ページをご覧ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

12月号の解答と当選者
タラバガニ

ウ	カ	ウ	ミ	ウ	ト
イ	ポ	ト	ド	ラ	マ
バ	ウ	コ	ン	ダ	リ
フ	マ	ナ	イ	ギ	キ
マ	カ	コ	ス	ン	ズ
ル	ン	タ	ニ	ナ	ク
ク	レ	ソ	ン	キ	タ

(神恵内村)ボ ン 太さん
(厚岸町)近 藤 咲 子さん
(根室市)す 一さん
(北見市)若 井 喜久恵さん
(札幌市)て ら ち ござん

間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5カ所の異なる箇所があります。さあ、見つけてください。(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは13ページにあります。

表紙に登場いただいたご家族を紹介いたします。

今月の家族物語
浜の物語



【田名部さんご一家】 田名部 雄基さん(34歳)、香澄さん(34歳)、俊稀くん(13歳)、央喜くん(7歳)

※写真は雄基さんの父 英樹さん、母 三津子さんと共に

「浜の家族物語」では、「なみまるくん」の表紙に登場いただいたご家族を紹介しませう。今回は、釧路市漁協の田名部さんご一家です。

自衛隊員から漁師の道へ

春から秋にかけてはつづ、そして秋冬はししゃも、毛がになど、1年を通じて釧路を代表する沿岸漁業に従事する雄基さん。曾祖父の代から続く漁師の家系で、小さな頃はあまり漁師になることを意識していなかったそうですが、父の英樹さんの背中を見ながら大きくなるにつれて、自分も漁師になりたいと思うように。そして、高校を卒業するタイミングでご両親に相談したところ、「一度、他の釜の飯を食べて、勉強してこい」と、当時は言われたそうですが、「多分、漁師の仕事は自分一人でするものではなく、同僚や先輩・後輩など、みんなで一つになって行う仕事。その大切さを、違う方向からも見せたかったのだと思います」と雄基さん。そうして元々幼少期から続けてきたアイスホッケーでの体力を活かし、高校卒業後は自衛隊の道へ進み、2年間、協同や協調性など、多くを学んでから念願の漁師になりました。

環境の変化に柔軟に対応できるような取組を

ただ、右も左も分からない漁師に成りたての頃は本当に大変だったと言います。父であり、師でもある英樹さんは、色々とお教えてくれる方ではありませう。

たが、当時は怒られてばかりの毎日。足を引っ張らないのに必死で、13年経った今でも「ある程度仕事ができるようになってきたとは言え、一人前と言われるまでには、まだまだ」とのこと。

そんな雄基さんですが、釧路市漁協の青年部部长となって4年になりました。雄基さんが部長になってから、これからの漁業を見据えて、船外機船を用いたあいなめ籠漁や花咲がに籠漁など、自分たちでやったことの無い新たな取組にも挑戦しています。「自分たちも含め、より若い世代の人たちが漁師に興味を持つきっかけになったり、着業しても安心して暮らしていけるように、今から色々な取組を行って、仕事の幅を広げ、環境の変化に柔軟に対応していく必要がある」と話します。

こうした積極的な活動で以前よりは家に居る時間が短くなってしまいましたが、奥様の香澄さんは「毎日、元気に家に帰って来てくれるだけで十分」と言いつつも、中学に入りバスケットボールに精を出す長男の俊稀くん、最近自分から習いたいと英会話を始めた次男の央喜くん、二人の息子さんたちと一緒に、頑張る雄基さんを応援したいそうです。

最後に雄基さんの将来の目標を伺ったところ、「資源管理をしっかりしつつ、次世代に繋がる安定した漁業を目指していきたい」と教えてくれました。



編集部からのお知らせ

皆様からのお便り、写真、イラストをお待ちしています!

次の①～③を明記の上、ご応募ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

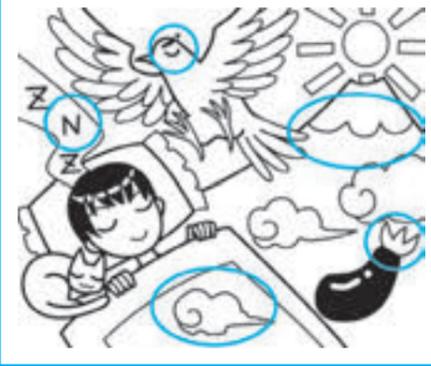
- ①なみまるおたより箱への投稿(お便り、写真、イラスト等)や、広報なみまるくん1月号への感想・ご意見など(※150字程度まで)
②11ページのシークワードの答え
③住所・氏名・年齢・電話番号

【宛先】1月23日までにお願いします。

(郵便) 〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地 北海道ぎよれん 総務企画部 広報担当
(FAX) 011-242-3543
(電子メール) info@gyoren.or.jp

※「なみまるおたより箱」には①からご紹介します。ご応募いただいた方の個人情報は、図書カード進呈や、お便り、写真、イラスト等の掲載(氏名、年齢、市町村名)にのみ使用いたします。写真やイラストは、返却できませんのでご了承ください。

11ページの間違いさがしの答え



自分自身はひとつの節目を迎えました。じっくり考えつつ、年を重ねたいと思います。浜の皆様、本年もよろしくお願ひいたします。(藤江)

12月中旬ですが、暖かかったり寒かったりの繰り返りで体温調整が大変です。今年はインフルエンザの流行も早いみたいで学校閉鎖にもなっています。たまには雪が降らない冬があってもいいのではと寒がりの私は思うのですが...
(初山別村 白府美恵子さん 65歳)



珍しく庭にアカゲラがつがいに来てました。冬支度なのでしょうか?
(根室市 すーちゃん)



ウチには、超ツンデレの保護猫、シャム系ミックス女子のすちこがいます。抱っこ嫌いで膝にも乗りませんが、お手とお座りができます。悪さをほとんどしない賢い猫です。すちこは、さすが厚岸で生まれ育った猫らしく、肉より魚系の味が好きです。昆布を舐めるのも好きです。
(厚岸町 105ちゃん 56歳)

インフルエンザ大流行です。師走で何かとバタバタしていますが、みなさん気をつけて下さいね。
(羅臼町 かいかいさん 9歳)
今年は辰年、昇龍の如く、ガンガン飛ばし、浜が無事故で大漁であります。皆様と共に御祈念申し上げます。ぎよれん、力の見せ所です。くみあい、皆で頑張り協同組合理念の見せ所です。
(厚岸町 魚大好爺さん 84歳)

編集後記

あけましておめでとうおたよりです

昨年は続く新型コロナウイルスの影響に加え、インフルエンザが猛威を振るい、とうとう我が家にもり患者が出ました。日ごろから鍛えているお陰か自分には感染することなく、おおよそ健康的な一年を送ることが出来ました。そして、なみまるくんでは、新型コロナウイルスの5類移行を受けて、約3年ぶりに浜の家族物語のコーナーを再開。読者の皆さんからのお手紙でも、復活を待ち望む声をたくさんいただいたので、本当に感謝無量です。本年も引き続き全道の浜に伺い、誌面を通じて皆さまに笑顔届けられるように頑張りますので、よろしくお願ひ致します。(古村)

小樽

12月以降、時化模様が続いていますが、真たらや助宗をはじめ、かれい類、ひらめなどが年の瀬の市場を賑わせていました。一方、年明けから石狩湾沿岸でしん漁が解禁となりました。水産試験場の来遊予想では、前シーズンに比べ漁期中盤までは若干多く、終盤は少なくなるということです。安全操業と漁に恵まれることを祈念しています。

室蘭

新年あけましておめでとうございます。主要魚種である助宗の水揚げは昨対70%ほどで推移していますが、卵の成熟が進んで、浜値は昨年より高値を維持しています。一方、市場では真たらの水揚げも多く見られ、浜は活気づいています。気温も下がり、時化模様が多い季節となりました。本年も生産者の皆さんの安全操業と豊漁を祈念しています。

根室

寒さが身にしみた12月は、野付地区において1日より、29号・巽沖造成にてほたての水揚げが開始となりました。15日時点では、時化も少なく、昨年を上回るペースにて水揚げされていました。一方、昨年比3割増と順調な水揚げが続いた根室市内のさんま漁は、12月上旬で全船が切り上げ、順次釣り鱈へと切り替わり、出漁しています。本年は鱈も大漁となり、浜が活気づくことに関係者一同期待しています。

留萌

12月に入ってからは時化が多く、思うように操業出来ない日が続いていましたが、出漁があれば真たらや赤がれいなどが水揚げされていました。11月より始まったほたて半成貝出荷も一部地区では終盤となり、凧を待つて早朝から出荷作業に追われています。今後、より一層寒さが厳しくなりますが、今年も安全操業で皆様が大漁の一年となることを心より祈念しています。

大漁祈願!

news 浜のほつとニュース

梶山

新年おめでとうございます。寒風吹き付ける冬の日本海では1月上旬よりすけとうだら延縄漁をひかえています。抜群の鮮度を誇るひやまのすけとうだらは鍋が美味しい冬の季節にぴったりな魚で、テレビ番組で紹介されるなど、本州でも根強い人気があります。厳しい寒さが続いているので体調管理にはご留意の上、新年の豊漁と安全操業を願っています。

函館

12月からは管内の助宗漁が本格化しています。昨年の約50%の水揚げとなっているものの、12月上旬から水揚げが増え始め、入札は活気に満ちています。一方、函館市場には真たら、あんこう、かじか等暖かい鍋や汁物にピッタリな魚種が多く上場され、冬漁本番を迎えています。これから時化早くなってまいりますので、安全操業にご留意の上、迎える新年が大漁となることを祈念しています。

釧路

新年、明けましておめでとうございます。本格的な寒さに見舞われ、ばばがれい、毛がに、ほっき、たこなど冬の主要魚種の水揚げが本格化してきました。毛がには好調ですが、その他魚種の水揚げは昨年並みか、微減となっていますので、これからの巻き返しに期待します。今後も厳しい寒さが続くことが予想されますが、引き続き安全操業を祈っています。

日高

12月からかれい刺網漁が始まり、ばばがれいの水揚げが本格化してきました。多い日には10トン以上の水揚げになり、浜は活気づいています。一方、12月11日より日高東部地区で毛がに籠漁も始まりました。近年は水揚げが減少傾向にありますが、今年はおおすわいがにだけでなく、毛がにも多く獲れることを期待しています。時化が多くなり、思うように操業できない日々が続いていますが、操業日が多くなること、安全操業を願っています。

北見

新年、明けましておめでとうございます。ほたて漁、底建網漁も終漁し、オホーツク海はすっかり冬本番を迎えています。その一方で、サロマ湖内のかき漁は旬の時期を迎え、水揚げが本格化しています。水揚げ量・浜値ともに昨年を上回ることを期待しています。日に日に寒さが増していますが、本年も各漁の安全操業と大漁を心より祈願しています。

稚内

新年明けましておめでとうございます。本格的な冬が訪れ、連日の降雪と厳しい冷え込みが続くなか、利尻・礼文地区では真たら・かれいの刺網漁が操業しています。一方、多くの船が上架され、次シーズンに向けて準備が進められています。本年が天候に恵まれ、安全操業で豊漁となることを祈念しています。

出港と共に 朝日に輝く ライフジャケット

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター

北るもい漁協
加藤 政子さん



鮭チーズフライ

新年は「浜のおかあさんレシピ」でスタートです。
今回は「鮭チーズフライ」をご紹介します。
鮭とチーズの旨みとサクサクな衣の食感を楽しんでください。



材料 4人分

鮭	4切	塩	適量
大葉	4枚	こしょう	適量
スライスチーズ	4枚	サラダ油	200cc
レタス	2枚	ソース	適量
ミニトマト	8個	醤油	適量
小麦粉	40g		
パン粉	40g		
卵	1個		

作り方

- ① 鮭は身の真ん中から皮に向け、切れ目を入れる。
- ② 大葉でスライスチーズを包み、①の鮭に挟み、塩、こしょうを振る。
- ③ ②に衣をつける。(小麦粉→卵→パン粉の順)
- ④ フライパンにサラダ油を1cmくらい入れ、揚げ焼する。
- ⑤ レタス、ミニトマトを添え、皿に盛る。お好みでソース、醤油をかけたら出来上がり。